

# 國學院大學栃木短期大学 FD 委員会活動報告書 第 13 号

## 令和 3 (2021) 年度の活動報告

1. 授業改善を「評価」から考える    2. 第 1 回研修会    3. 第 2 回研修会  
4. 授業アンケート    5. FD 委員会活動記録



### 1. 授業改善を「評価」から考える

FD 委員長 都留 寛

#### (1) これまでの振り返りについて

新型コロナウイルス感染拡大によって、令和 2(2020)年度には、遠隔授業の導入を余儀なくされました。その結果、全ての教員に、オンライン授業などの ICT を活用した授業への対応力が問われることとなりました。

また、科目の特性によっては、ICT 導入の困難な場合があり、各科目の内容に応じた改善にも多くの努力が払われました。

令和 2 年度の 4 月～5 月は、課題型学習を導入し、学生達の学修を保証すると共に、6 月から始める対面授業とオンライン授業に対応すべく、授業改善を進めていくことが急務となりました。

令和 2 年度の「授業アンケート」では、令和 2 年 6 月 3 日(水)に実施した「令和 2 年度第 1 回研修会」での研修を起点として、全学で取り組んだ授業改善の努力の結果として、全てのアンケート項目において、高評価を得ることができました。

また、遠隔授業導入以前と導入後の「授業アンケート」の結果を比較すると、次のように考えることができるとわかりました。

平成 30 年度と令和元年度の結果には、大きな変化は見られないが、令和 2 年度の結果を見ると、全てのフィールドの全ての項目において ICT 活用による授業改善の効果が大きく表れ、学生たちの満足度が高まると共に学修成果に対する高評価につながったと考えることができました。

#### (2) 令和 3 年度の活動について

この結果を得て、令和 3 年度では、ICT 活用のさらなる推進を基盤として、「一人ひとりの学生の学修成果を的確に捉え、指導へと繋いでいく授業改善」を課題としました。

第 1 回研修会については、毎年行われてきた「実践報告」と「協議会」という形は、実践発表をしてくださった先生にとっては、「有意義で意味のある機会」となっていたが、研修会の参加者にとっては、科目の違いや演習などの授業形態の違い等、自らの授業改善に引き寄せて考えることが難しいケースもありました。

そこで、一人ひとりの教職員が身近に感じ、積極的に課題に取り組む研修会の形を作れないかと協議した結果、フィールド毎の課題を取り上げ、全ての教職員が発言することができる活動を企画することとしました。

普段の授業から課題を発見し、ベテランから若手まで、それぞれの見方・考え方を混ぜ合わせ、自分たち独自の解決方法を導き出すことができるような形式にすることを目指しました。

第 2 回研修会については、毎年行われてきた「講演会」の形式は引き続き継承するが、その内容については、年間研修目標を意識し、第 1 回研修会での研修内容に関連した講演内容を探ることとしました。

そこで、本年度は、「評価」についての内容を含む講演内容を模索し、講師を選び、依頼することにしました。

2. 第 1 回研修会 令和 3 (2021) 年 7 月 14 日 (水) 実施

研修会テーマ 『授業の振り返りをどの様にしているのか』

- ① 開催日時：令和 3 年 7 月 14 日 (水)  
14:30～16:25
- ② 参加者：短期大学教職員全員
- ③ 研修会の趣旨  
全教職員の協力を得て、授業改善を更に進めるため、本年度の方向を、各教員の普段の授業改善の工夫や努力について情報共有をし、授業力の向上に資する研修会としました。  
令和 3 年度第 1 回研修会では、「各フィールドで学修成果をどのように捉え、指導につなげていくか」について、普段の授業では、どのような工夫や努力をしているのかを出し合い、様々な工夫や努力の仕方を共通理解し、それぞれの授業実践に生かすことを目指しました。  
また、第 2 回研修会には授業アンケートのフィードバックシステムについて研究をしておられる講師を招くようにし、授業アンケートを今以上に授業改善に効果的に反映させる方策について研修することとしました。

- ④ 研修会の実際
  - (1) 開会の挨拶：FD 委員長
  - (2) 研修テーマ「授業の振り返りをどの様にしているのか」
    - ・司会は、各フィールドの教務委員が行いました。
    - i 研修テーマの主旨説明
    - ii フィールド毎によるグループでの情報交流

- 「学習成果の評価をどの様にしているか」
- 「普段の授業で配慮・工夫していることは、どんなことか」「授業アンケートはどの様に利用しているか」等について
  - iii 情報交流内容の集約
  - (3) 情報交流内容の発表(質疑)  
フィールド毎に 5 分程度の報告発表
  - (4) 協議  
「今後の授業改善の課題について」  
「授業アンケートの生かし方の改善について」
  - (5) 閉会の挨拶：FD 副委員長

- ⑤ 研修の成果  
授業改善に関する授業評価の観点整理をフィールド毎に行い、「診断的評価、形成的評価、総括的評価の適切な使用」「一人ひとりの学習状況を把握するポートフォリオ評価と学習成果を捉えるパフォーマンス評価の活用」「自己評価を促し、自立した学習者を育てるルーブリック評価の活用」等について研修を深めました。

この研修を通じて、各フィールドでの情報交換や相互協力を生み出し、各教員の教育能力の向上、学習成果の分析を踏まえた教育課程の開発・改善、教育効果を高める授業方法の改善へ資することができたと実感しています。

学習成果の評価方法は、様々な教育活動に応用できると共に、研究活動や社会貢献での成果を評価する方法にも活用されると考えています。



3. 第 2 回研修会 令和 4 (2022) 年 1 月 19 日 (水) 実施

講演会

『授業改善のための授業評価アンケート  
フィードバックシステムの開発と課題』

東洋大学 文学部 教育学科 教授  
高等教育推進センター 副センター長 長谷川勝久 先生



東洋大学では、「本学の高等教育活動の継続的な改善・改革を組織的に推進・支援する」目的で、「高等教育推進センター」を設置しています。

2022 年度からの授業評価アンケート項目の作成において、次の目的を設定しています。



「授業評価アンケートの開発、分析及び活用」と「学生の学習成果の把握と検証」について「教育方法改善部会」が活動しています。

目的

学修者本位の教育への転換をもたらすための授業改善

学修者本位の教育とは

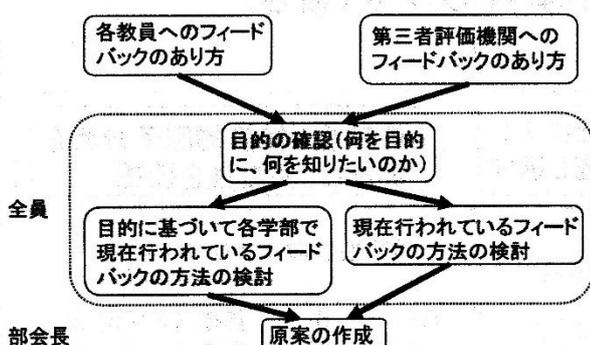
学修者本位の教育の実現とは、各高等教育機関の既存のシステムを前提とした「供給者目線」を脱却し、学位を与える課程(学位プログラム)が、学生に必要な資質・能力を身に付ける観点から最適化されているかという「学修者目線」で教育を捉え直すという根本的かつ包括的な変化を各機関に求めているものである

令和 2 年 1 月 22 日 中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針.jp1」より引用

次の図は、本部会で開発したフィードバックシステムです。

また、「学修者本位の教育」への転換をもたらす授業改善のための取り組みについての課題を次のように捉えています。

STEP4: フィードバックシステムの開発



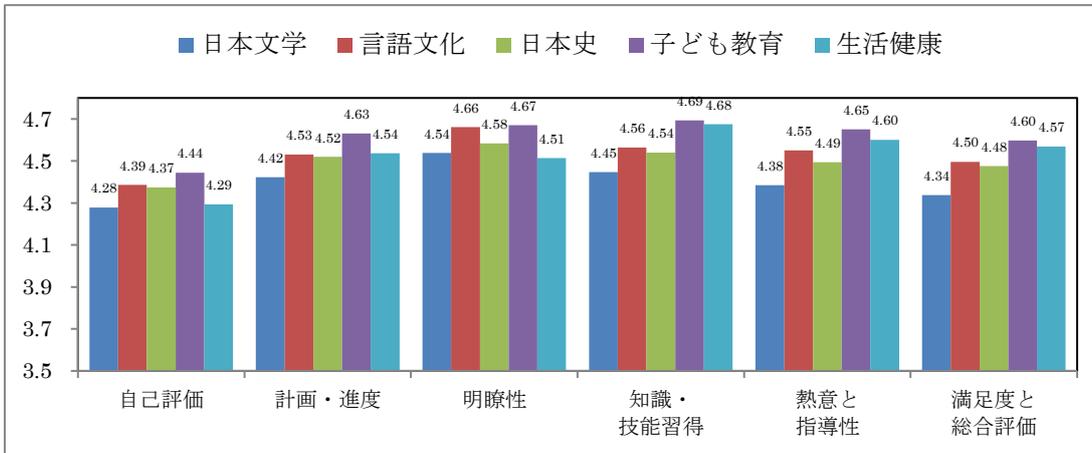
今後の課題

1. 効果が見られなかった学部について、その原因を明らかにすること
2. 「授業評価アンケート結果に対する所見の活用の仕方
3. 学生・教員に対する情報公開のあり方
4. 自由記述における誹謗・中傷をAIを適用して非表示にできる機能の開発
5. 授業評価アンケートと学習評価指標とを関連づけ、授業改善が学修効果を高める上でも効果が上がるようにするための工夫

一人ひとりの教員が、学修者本位の教育を実現することができるように援助・支援することの重要性は、ますます増してくることを考えています。

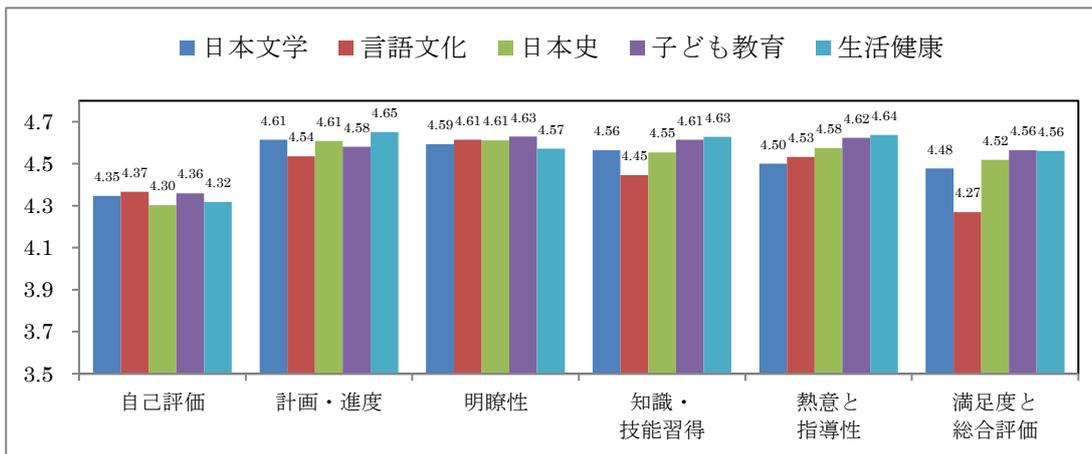
### 4. 令和 3 年（2021）年度授業アンケート

令和 3 年度春 semester 授業アンケート 各フィールド（全体）平均値



※回答者数  
 日文：375  
 言語：248  
 日本史：364  
 子ども：402  
 生活健康：274

令和 3 年度秋 semester 授業アンケート 各フィールド（全体）平均値



※回答者数  
 日文：305  
 言語：166  
 日本史：212  
 子ども：354  
 生活健康：388

(グラフ作成：森岡宏行准教授)

※グラフの見方

①横軸：アンケートの諸項目を 6 つに分類、棒グラフの数値は各項目の平均値 ②縦軸：アンケートの各項目の評価点 (5.0 満点)

#### 授業アンケートの結果と分析

令和 3 年度のアンケートの回答者数は、春 1663 人（昨年 2148 人）、秋 1425 人（昨年 1533 人）であった。総平均は春が 4.49（昨年 4.46）、秋が 4.51（昨年 4.45）である。回答者数の減少は、学生数の減少との連動がその原因の第一であろう。総平均が昨年同様に高いのも、誠実で正確な回答が多数を占めるようになったことの反映と思われる。これは 2 年間継続したオンラインでのアンケート実施による成果と見ることもできるのではないかと。

### 5. 令和 3 年度（2021）年度 FD 委員会活動記録

#### (1) 定例委員会

- 第 1 回 FD 委員会：令和 3 年 4 月 21 日
- 第 2 回 FD 委員会：令和 3 年 5 月 19 日
- 第 3 回 FD 委員会：令和 3 年 6 月 16 日
- 第 4 回 FD 委員会：令和 3 年 7 月 21 日
- 第 5 回 FD 委員会：令和 3 年 8 月 18 日
- 第 6 回 FD 委員会：令和 3 年 9 月 29 日
- 第 7 回 FD 委員会：令和 3 年 10 月 27 日
- 第 8 回 FD 委員会：令和 3 年 12 月 8 日
- 第 9 回 FD 委員会：令和 4 年 1 月 26 日

#### (2) 研修会

- 第 1 回 FD・SD 研修会：令和 3 年 7 月 14 日
- 第 2 回 FD・SD 研修会：令和 4 年 1 月 19 日

令和 3 年（2021）年度  
 國學院大學栃木短期大学 FD 委員会活動報告書 第 13 号  
 令和 4（2022）年 6 月 23 日発行  
 編集：國學院大學栃木短期大学 FD 委員会